

**2022(令和4)年度 関西保育福祉専門学校
第1回教育課程編成委員会報告**

本校の教育課程編成委員会設置要綱に基づき設置した教育課程編成委員会において、第1回委員会を下記の通り開催いたしましたので、報告いたします。

1. 開催日時 2022(令和4)年9月22日(木) 15:00～17:00

2. 開催場所 関西保育福祉専門学校 校長室

3. 委員一覧

【委員】

名 前	所 属 等	備考
下里 里枝	関西国際大学 教育学部教育福祉学科 准教授	欠席
得平 正宏	社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会 事務局長	出席
赤井 祐	社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷ケアセンター宝塚 センター長	出席
浅田 尚子	尼崎市立水堂保育所 所長	出席
北島 孝通	学校法人庄内神社学園 幼保連携型認定こども園 庄内こどもの杜幼稚園 園長	欠席
濱田 洋行	社会福祉法人協同の苑 協同の苑六甲アイランド 施設長	出席
黒岩 由美子	社会福祉法人ふたば福祉会 塚口北ふたば保育園 園長	出席
村田 健治	関西保育福祉専門学校 教務委員長	出席
藤田 千波	同上 保育科学科長	出席
中嶋 昭典	同上 介護福祉科学科長	出席
藤井 和子	同上 保育科教員	出席
吉田 しのぶ	同上 保育科教員	出席

【オブザーバー】

濱名 篤	学校法人濱名山手学院 理事長	欠席
本田 あけみ	関西保育福祉専門学校校長 関西国際大学経営学部教授	出席

4. 概 要

(1) 校長あいさつ

(2) 委員長の選出

設置要綱により、村田健治 教務委員長が選出。

(3) 報告事項

1) これまでの教育課程編成委員会からのご意見とその対応について

□ 昨年度委員会からのご意見と学校の取組について

委員会で頂いたご意見	専門学校としての取組
2021 年度第二回教育課程編成委員会より 1 保育現場でのオンライン公開保育など、ICT 活用が進んでいる。タブレット等の活用も進んでいるが、記録やお便り等では電子化が進んでおり、とりわけ PC スキルが必須となり、保育者にもスキル習得が求められる。 2 若年職員の育成が課題となっている。上司や同僚の関わり方が職務へのモチベーションに直結するため、肯定的に受け入れ、安心できる職場づくりが必要である。 3 子ども、保護者や同僚職員に対してのコミュニケーションスキルの向上が求められている。自分の思いを様々な方法で分かるように相手に伝えるという経験がより一層求められている。 4 コロナ禍で思うような現場実習ができずにいる学生が散見された。校内での実習を一層充実させる手立てを講じていく必要があると考えられる。	2022 (R4) 年度の重点 1 保育科 1 年入学時に全員が iPad を使用し、学修支援アプリ（ロイロノート・スクール）を基盤に授業の DX 化を定着させる。また「ICT 活用 C」の選択科目を設定し、保育現場での実践スキル習得を目指す。 2 新入生のメンタルサポートや、保育者の資格取得へのモチベーションを維持できるように、全教職員体制で学生の情報共有し、対応できる環境づくりに努める。 3 子どもや保護者相手の具体的なロールプレイを取り入れた学習を保育・教育実習指導や領域「指導法」の演習を中心に展開し、対人コミュニケーションスキルの向上を図る。 4 西館 3F に模擬保育室環境を整備し、乳児の沐浴演習や食事介助など、校内実習で実践的な保育を学ぶことのできる体制を充実させる。

3) 学校の現状について

■ 学校から資料に基づき説明

- ・2022 年 3 月末卒業生のうち、保育科の就職率は 98%であった。理由は本人が希望する就職先が見当たらず、採用試験を受験できなかったため。また、介護福祉科は 100%の就職率であった。
- ・2022 年度入学者の状況は保育科が 88 名であったが、定員を満たしていない状況が続いている。入学者の推移では、社会人経験のある学生が「学び直し」として本校を受験される層が一定数出てきている。
- ・オープンキャンパスでの参加者は若干増加傾向が見られているが、出願数は微減しており苦戦状況にある。

(4) 協議

【2022 (令和 4) 年度の取り組み】

1) 学校としての取り組み

■ 学校から資料に基づき説明

□ 委員からの質問及びご意見

(やむを得ず欠席の下里委員・北島委員から書面にての質問・ご意見を含む)

① 学校経営重点目標に関して

・貴校の取り組みである「ロイロノート・スクール」の活用について、具体的な効果、学生の反応などはどうか。また、保育園、幼稚園ではどのような活用をされているか、実習での活用法はあるか。

→「ロイロノート・スクール」アプリは機器の種別を選ばず、Windows や Apple といったマルチ OS に対応しているため、教員と学生のファイルの共有や課題送付や受け取りなどのやりとりがスムーズに行えるようになった。

→他大学等で学生に配布しているメールアドレス等と違い、アプリ内での情報のやり取りのため、外部への情報流出も少なく、比較的安全な運用ができるメリットがある。

→学生が提出した課題やカードを一覧化したり、閲覧したりできるシステムがあるため、振り返りや学生間の学びの共有という面において有用である。

→ロイロノートそのものは、小中学校での導入が主体のアプリであり、学習支援の側面が強い。しかし、保育科 1 年が全員同一機種 of iPad を用いて資料のやりとりや共有などを授業内外で行う機会をもつことは、保育園や幼稚園での活用に結びつくことができると考えている。

・各実習における、目標や課題を、実習後はどのように振り返っているのか。

→実習における目標については、実習事前指導において事前レポートという形で書かせている。また目標の立て方については具体的な表記の仕方を明示する 1 年次から、実習経験を積み重ねた 2 年次で段階が変わっていけるよう指導し実習に臨ませている。

→実習後は振り返りとしてグループワークを中心に実習で経験したことを学生同士のカンファレンスとして話し合う機会を設けている。自分自身の経験したことから感じた大変さや難しさ、学びを共有できるようにしている。

→実習の終わりには、事後レポートを提出させ目標に対して自分はどのような取り組みを進めたのか、課題は達成できたのかを振り返らせている。その後、各施設からの評価表をもとに、学生一人ひとりと個人面談を実施し、次の実習や学習への課題を明確化している。

・定員の確保、中途退学や除籍率など、どちらも減らしていくことは大変だと考えるが、退学者が出るタイミングは具体的にいつ頃が多いのか。

→今年度の 1 年生については、保護者の勧めで入学した者、登校出来なくなった者、違う進路の選択をした者などがあつた。入学時には意欲がある学生がほとんどであるが、入学後すぐのモチベーションを保つためのフォローが必要であると認識してい

る。特に、ここ2～3年はコロナ禍で、人とのコミュニケーションが苦手であったりうまく接したりすることが難しい学生が目立っている。

② 学校における新型コロナウイルス感染症対応について

■ 学校から資料に基づき説明

- ・ワクチン接種状況について説明。2022年度8月31日現在ワクチンの接種3回の接種状況では、1年生が摂取した学生が少ない。国の方針でも3回目接種を推奨しており、実習先についても接種を推奨されているため、3回目未接種の学生に関しては接種を促すよう進めていきたい。

2) 保育科、介護福祉科の取組

■ 学校から資料に基づき説明

□ 委員からのご意見

- ・コミュニケーション能力は学生だけではなく、新卒者の全ての課題となっている。大事なことを周囲に伝えにくかったり、保護者との会話の中でも相手の気持ちを考えた言葉の使い方が難しかったりする姿が見られている。現場職員の「コミュニケーションはこうあるべき」という既成概念にとらわれず、若い世代の感覚をまずは受け止め把握することが大切ではないかと考える。しかし、保育・介護ともに対人援助を基本としている職業であり、コミュニケーションの機会の増進やスキル向上に向けて取り組みは続けていくことが望ましい。
- ・実習生の姿から、子どもとどのように関わっていけばよいかわからないまま実習先にきている姿を感じる。大人とのコミュニケーションはもとより、子どもとのコミュニケーションも取りにくい学生が年々増えてきている。また、コロナ禍での実習生や就職者を見ていると、人との距離感が遠く、目を見て話すことや共感する傾きなどが苦手であるように感じている。保育者として現場に立つ上で、あいさつなどの基本の会話ややり取りを含めての指導が必要になってくる。
- ・施設ではコロナ陽性者やクラスターは定期的に発生する状況がどうしてもあるが、学生の資格取得と卒業に向けて必須となる実習ではあるので、できる限り協力したいと考えている。
- ・保育や教育の現場で、行事が行えない状況が続いているが、子どもたちや保護者にとっては、一生に一回のその時にしか行えない機会であることが多い。その教育的な意義を踏まえ、企画したり体験したりする中での成功や失敗体験の共有がコミュニケーションスキルに繋がったり、レジリエンスにつながると考える。体験が少なくなっている現在だからこそ、意図的に展開していくことが必要だと考える。
- ・新卒を含め、保育、介護の職場では適応障害や自律神経失調症など、徐々に休職する人が増えてきている。就職するまでに実践の場を経験していることはとても重要で、

しっかりしている職員ほど、大学などで地域の活動に参加している経験のある場合が多い。

3) 授業評価アンケートについて

■ 学校から資料に基づき説明

- ・学生の自己評価については学修ベンチマークを用いている。各期終了時に学生が自分自身の学びを振り返り、評価できるようにしている。実習に関してはルーブリック評価を取り入れ、到達度評価としての評価を主体にしている。

(5) 事務連絡

- ・次回は、2023 年 3 月 2 日（木）に予定。